

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	吹越 菜央	学校名	小平市立小平第四小学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間・道徳	対象学年（人数）	5年生（80名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2018年9月～10月（全7時間扱い）		

## 【実施概要】

1. 単元名(活動名) : Joy To The World!!						
2. 実践する教科・領域 :  総合的な学習の時間 道徳 (C:国際理解、国際親善) 外国語活動 (モジュール学習) ※モジュール学習 : 毎週水曜日の朝15分間で行う学習の時間		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) :						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と他国との同じところや違うところに気付いたり、難民の生活を想像したりして世界の課題について自分に置き換えて考える。</li> <li>・東京オリンピック・パラリンピックをきっかけとして、世界平和に向けての考えや自分なりの思いをもつ。</li> <li>・世界の現状や難民問題に関して興味・関心をもつ。</li> </ul>						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	難民と自分の生活とを比較し、同じところと違うところに気付く。				
	②思考力、判断力、表現力等	「難民問題」について自分に置き換えて考えたり、自分にできること、将来の自分にできること、日本の社会にできることに分けて考えたりすることができる。				
	③学びに向かう力、人間性等	難民について「自分だったら」という視点を持ち、地球人として共により良い世界にしていくために前向きに考えようとする。				
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】					
	<p>2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、学校においても様々な方面からオリンピックを盛り上げていこうという取組がなされている。オリンピックは「平和の祭典」と言われていることから、スポーツを通じて人種や差別、民族、国境を越えて平和な世界の実現を目指している。</p> <p>平和な世界の実現のためにはまず、世界の現状を知ることが大切だと感じている。「知ること」なしに何かを考えたり次のステップへ移ったりすることができないからだ。</p> <p>本単元は世界の課題における「難民」をテーマに、彼らの気持ちや思い考える中で、小学生なりに自分に置き換えて考え、行動していこうとする力を付けさせたいと考えている。その上で、オリンピックに込められた平和への願いの本質を考えながら、東京オリンピック・パラリンピックを迎えて欲しいと考え、本単元を設定した。</p>					
	【単元の意義】					
	<p>急速にグローバル化が進んでいる現代では、国を超えてあらゆる人々が互いに尊重し合い、共に力を合わせて世界をより良くしていこうとすることが非常に大切である。このようなことを踏まえると、子供達にとって2020年に開催される、「東京オリンピック・パラリンピック」までの期間は、多くの外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする力や、日本人としての自覚と誇りを持ち、豊かな国際感覚をもてるようにするための大切な準備期間であると考えられる。</p> <p>また、オリンピック・パラリンピックをきっかけとして、学校へ行けない子供達の存在を知り、教育を受けることの大切さ、難民の存在などの世界の現状に目を向け、小学生なりに自分の考えや思いを持ち、できることを考えることがこれからのより良い未来に繋がっていくと信じている。</p>					

## 【児童／生徒観】

本学年の児童は、1学期に社会科「世界の中の日本」という単元で地球儀や地図帳を使って様々な国の位置や大陸、海洋の名前を学習している。また、本年度から先行実施している外国語活動において、英語の歌を歌いながら日本語と英語の音の違いに気付いたり、ALTや留学生とのコミュニケーションから異文化に触れたりして、楽しみながら取り組んでいる様子が窺える。外国語活動で、行きたい国を尋ねたり答えたりする単元では、国旗に触れたことにより、興味を広げ、自主的にたくさんの国の国旗を調べてきたり、国名を覚えて休み時間にクイズを出し合ったりするなど、友達と楽しみながら世界に触れ、学びを深めている。留学生が来校した際には、多くの児童が物怖じせずに学んだ英語を使って遊びに誘うなど、積極的に英語を発することができる児童が多い。さらに、外国にルーツをもつ児童もおり、世界の国々に興味や関心をもちながら、「いつか色々な国に行ってみたい。」という憧れを強くしている。

## 【指導観】

外国語活動の先行実施が開始されたことにより、昨年よりも時数が増え、外国のことに触れる機会が増えている。アメリカやオーストラリアなどのよく知られている国を始めとした先進国と呼ばれる国々については、少なからずどんな国なのかという知識をもっている。しかし、日本に程近いアジアの国々や発展途上国と呼ばれる国々についてはまだまだ知らないことが多く、狭い世界の情報や知識にとどまっている。そのため、自分たちと同じ世代の世界の子供達の生活の様子を知ることにより、今の日本での生活や学校へ行って勉強すること、家族や友達がそばにいることは必ずしも当たり前ではないということに気づき、自分の思いや考えをもてるよう指導していく。

世界の課題についてまず、「知ること」をしなければ、次のステップである、「行動すること」に繋がりがづらい。これは子どもだけでなく、大人にも言えることである。

このようなことを踏まえ、発達段階に応じた学習展開や教材を工夫し、「難民」に対してマイナス面だけでなく、プラス面に気付けるようにし、同じ地球人として互いに助け合って生きていくことの大切さを伝えたい。

「知ること」「考えること」、また互いの考えを「共有すること」を大切にした授業展開を意識し、学んだことや小学生なりに考えたことを学習発表会で他学年の児童や教員、保護者、地域の人たちへ発表することで、「世界の現状を伝えること・知ってもらうこと」が課題解決への具体的な行動の一步と捉えながら指導にあたる。

## 7. 単元計画（全7時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1	世界の現状や課題、多様性に気付く。  (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>行ってみたい国を1か国選び、世界地図にシールを貼ることで、友達がどんな国に興味をもっているのか知り、世界について考えるきっかけを作る。</li> <li>「世界がもし80(100)人の村だったら」ワークショップを行う。</li> </ul> 性別 年齢 地域 言語 識字率など	ワークショップ版 「世界がもし100人の村だったら」 開発教育協会
2	世界の子供達の大切なものと、自分の大切なものを比べることを通して、世界の国々と日本との生活環境の違いや同じところに気付くとともに、世界の子供達の気持ちを考える。  (道徳：C 国際理解、国際親善)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の一番大切なものを絵に描き、黒板に貼りだして全体で共有する。また、理由も発表する。</li> <li>カンボジアの子供達が「一番大切なもの」という同じテーマで描いた絵を見せ、何の絵が描かれているのかをグループで話し合い、予想する。</li> <li>絵本「あなたの一番大切なものはなんですか？」を読んで、気付いたことを発表する。</li> </ul>	絵本「あなたの一番大切なものはなんですか？—カンボジアより—」 山本敏晴

3	<p>オリンピック・パラリンピックについて知り、東京開催への期待感を高める。</p> <p>(総合的な学習の時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京五輪音頭を踊り、東京オリンピック・パラリンピックへの期待感を高める。</li> <li>オリンピッククイズの答えをグループで話し合いながら考える。クイズを通してオリンピックの歴史やオリンピック休戦の意味を理解する。</li> <li>日本の選手や難民選手団の選手の写真を見て、出身国を当てさせる。あるチームが同じチームなのに出身国が異なることに気づき、「なぜ自分の国を代表できないのか。」を考え、自分の考えを書く。</li> </ul>	<p>オリンピック・パラリンピック学習読本 (東京都教育委員会)</p> <p>東京五輪音頭 (公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会)</p>
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「難民」についての知識や理解を深める。</li> <li>前時で学習した「難民選手団」を通して、難民に対してステレオタイプをもつのではなく、前向きに夢に向かって行動している人がいることを知り、自分なりの思いをもつ。</li> </ul> <p>(総合的な学習の時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォトランゲージを行い、写真に写っている人や物について感じたことや気付いたことをグループで話し合い、物語を作っていく。</li> <li>フォトランゲージで使用した写真や難民選手団の選手、かつて難民だった著名人の写真を見せ、彼らの共通点を考える。</li> <li>前時で考えた、「国を代表できない理由」が「難民」であることを理解する。</li> <li>学校に行けず、家族のために働く子供達の存在を知り、自分なりの思いをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難民の写真ベストフォト集 (国連 UNHCR 協会)</li> <li>動画「家族のために働く 13 歳のシリア難民の少年」 (日本ユニセフ協会)</li> <li>動画 絵本「その子」 詩：谷川俊太郎</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>難民の人々がどんな支援を必要としているのか、自分に置き換えて考える。</li> </ul> <p>(総合的な学習の時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>突然故郷を追われることになり、難民として生活を始めるのに「何を持って行くか」「何が必要か」をグループで話し合いながら、自分に置き換えて考える。</li> <li>実際の難民のかばんを見て、自分の予想と比較し、考えたことをまとめる。</li> <li>難民の人を支援するために何ができるのか、「今の自分にできること」「将来の自分にできること」「日本の社会にできること」に分けて、グループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「シリア難民たちは何を持って逃げてきたのか」 (NGO 国際救済委員会)</li> </ul>
6	<p>外部講師 AAR Japan 難民を助ける会 「私が難民になったら」 ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の問題を身近に感じる。</li> <li>難民を体験する中で、世界の問題を自分に置き換えて考える。</li> </ul> <p>(総合的な学習の時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスグループに分かれて難民を体験する。</li> <li>難民の方々が抱える困難を避難生活を体験しながら理解する。</li> <li>グループを家族として考え、意見をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援プログラム (東京都教育委員会)</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>五輪の輪は「平和への願い」であることを知り、学習のまとめをする。</li> </ul> <p>(総合的な学習の時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が「怖いもの」と「夢」を書いてそれぞれの思いを共有する。</li> <li>世界の国々の子供達の「怖いもの」と「夢」について自分たちのものと比べて気付いたことを話し合う。</li> <li>Peace Orizuru を作製し、羽の部分に世界平和に向けたメッセージを書いて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画「あなたにとつての平和とは？」 (日本ユニセフ協会)</li> <li>“Fears And Dreams Report” (World Vision)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習発表会で多くの人に「難民」のことや「世界の課題」について伝え、知ってもらおう。</li> </ul> <p>(学校行事：学習発表会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京五輪音頭や劇、英語の歌などを盛り込み、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「難民」や「世界の課題」について伝える。</li> </ul> <p>演目「国際理解 “Joy To The World!”</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル台本</li> <li>東京五輪音頭</li> <li>Song “We are the world”</li> </ul>

8. 本時の展開			
本時のねらい：「難民」についての知識や理解を深めることができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (20分)	<b>1、フォトランゲージ</b> ○難民の写真の中から、グループで1枚選び、物語を作る。 ○グループごとに出来上がった物語を発表する。 ○ストーリーから出てきたキーワードを、ポジティブな言葉とそうでないものに分けて板書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主人公を一人以上設定し、名前を付けさせる。</li> <li>全員が参加できるよう、少人数(4, 5人)でグループを設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難民の人々を写した写真 ベストフォト集 (国連 UNHCR 協会)</li> </ul>
<b>展開</b> (20分)	<b>2、「難民」について知る。</b> ○写真に出てきた人たちや、前時の学習で見た、国が違うのに同じチームである選手達、アインシュタインやハリル・ホジッチの写真を見て、彼らの「共通点」を考える。  ○彼らが皆、「難民」であることを知る。また、国が違うのに同じチームでオリンピックに出場している人たちが「難民選手団」であることを知る。  ○スライドを見ながら「難民クイズ」を行う。  ○怖いものアンケートで自分たちが書いたものと、シリアを始めとしたその他の国々の子供たちが怖いと思うものを比較し、気付いたことを発表する。自分たちとの生活環境の違い、学校に通えることや家族、友達と過ごせることが当たり前でないことに気付く。  ○シリアから逃れてきた子どもが学校に通えずに働いている様子の動画を見る。また、谷川俊太郎の詩「その子」を映像で見た後、声に出して読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれ立場が異なる人々の写真を見せ、関心を高めさせる。</li> <li>前時で使用した難民選手団の写真を再度見せる。</li> </ul> ○スライドを見せる。  ○事前に「あなたの怖いものは何ですか?」という質問の答えを書かせ、掲示しておく。  ○「ぼく」と「その子」の生活環境の違いに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつては難民だった著名人の写真</li> <li>難民選手団の選手の写真</li> <li>「難民クイズ」のスライド</li> <li>「あなたの怖いものは何ですか?」のアンケート結果</li> <li>詩「その子」 谷川俊太郎</li> </ul>
<b>まとめ</b> (5分)	○この学習で気付いたことや考えたことなどのまとめをワークシートに書く。		

## 9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

知識及び技能：難民と自分の生活とを比較し、同じところと違うところに気付く。

- ・写真を使ってグループで物語作りをし、発表する。
- ・ワークシートに自分の感じたことや考えを書き、発表する。

## 10. 学習方法および外部との連携

## 学習方法

- ・学級を越えて学年で活動したり、グループ活動を多く取り入れたりする。これにより、児童同士の対話が生まれ、自分一人の考えに偏るのではなく、多くの異なる意見から、自分の考えと繋げて考えることができ、更に学びを深めることができるようにする。

## 外部連携

- ・「平成30年度オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業」による教育支援プログラムより、NPO 法人 難民を助ける会（AAR Japan）と連携して、ワークショップ「わたしが難民になったら」を行う。東京都が事務局となり、プログラムを実施している。これにより、担任だけでは伝えきれない「難民問題」の深さに迫ることができ、知識を更に増やすとともに、より課題に対しての重要性が伝わると考えられる。

## 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・単元通して全ての授業を校内で公開とする。事前に時間割を周知し、呼び込む。
- ・学習の様子や使用した教材を、廊下などの多くの人の目に留まる場所に掲示する。
- ・単元を通して学習したことを、学習発表会で発表することにより、多くの他学年の児童、保護者、地域の方々に見てもらおう。そして国際理解教育の実践を知ってもらおうと共に、「難民」を始めとする多くの世界の課題に目を向けてもらおうきっかけとする。

## 【自己評価】

12. 苦勞した点	世界の問題や難民について「自分に出来ることは何か」を考える際、考えに行き詰まっている児童が多く見られた。学校の取り組みとしてユニセフ募金をしているので、「募金」という方法は出てくるが、それ以外でのアイデアが出づらかった。小学校段階では視野が狭く、知識もまだまだ乏しいためだと考えられる。
13. 改善点	「自分事として考える」ために、実際に世界で活躍している人（青年海外協力隊など）から話しを聞く機会を設け、外部人材をうまく活用しながら、将来の自分にできそうなことを考えるヒントとなるようにする。 また実際に行動に移せるような活動を取り入れることで、学んだことを生かせるようにしていく。
14. 成果が出た点	「難民」や「世界の課題」について知れば知るほど、「もっと知りたい。」という意欲が増したり疑問が浮かんできたりして、自ら自主学習で調べて勉強してくる児童が多かった。新聞やインターネットを使って気になったことを自分なりにノートにまとめていた。更に、世界のことを考え、行動に移すためには英語が話せることも必要だということに気付き、英語に対しての見方が変わり、外国語活動の学習に意欲的に取り組む児童が増えた。

15. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

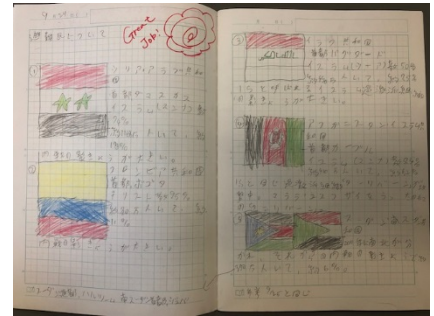
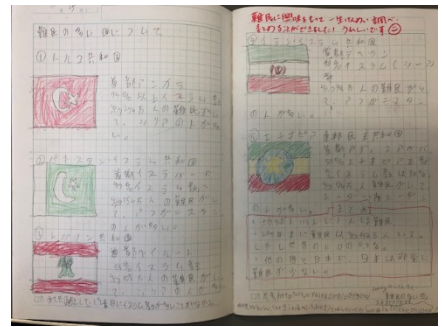
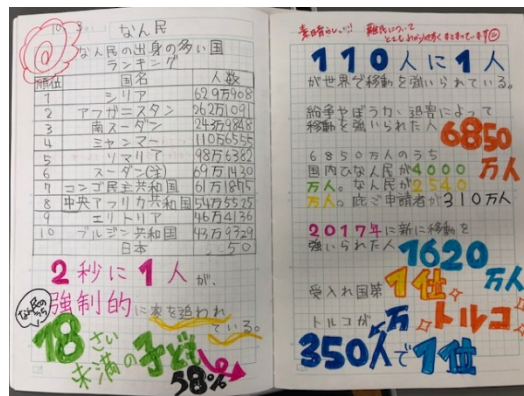
☆「怖いもの」「将来の夢」を児童に事前にアンケートを取り、掲示した。その後、“Fears And Dreams Report”(World Vision)をもとに、4か国の子ども達と同じアンケート結果を提示した。→必ずしも自分たちの生活環境が当たり前でないことに気付く。



☆本単元の全ての学習を終え、学習発表会で発表をした後の全体を通した振り返りカードより

- ・難民がたくさんいることにびっくりしたし、難民のことを考え、たくさんの人を助けたいと思った。
- ・学習発表会で難民のことを発表したことで、見に来た保護者や地域の人に難民がいるということが広がっていいなと思った。
- ・とにかく難民のことを知って欲しい気持ちが一番だけど、自分たちが難民にできることを一人一人考えてもらいたい。
- ・東京オリンピック・パラリンピックが楽しみになった。難民選手団をたくさん応援したい。
- ・「その子」の詩を聞いたとき、少し泣きそうになった。
- ・オリンピック・パラリンピックに興味をもった。世界が仲良くなって、平和になることが何よりの夢です。
- ・難民の学習を通して、家族と一緒に暮らせること、友達と遊べること、学校で学べること、その大切さや幸せに気付いた。
- ・難民を助けるには勇気が必要だと改めて思った。世界の人たちはみんな優しいと思った。
- ・英語でしゃべれるようにならなきゃとか、英語で歌を歌うのって楽しいんだと思った。幸せにできる花があるなら、種を苦しんでいる人の所にまいていきたい。
- ・将来、難民の人を助けられるような医者になりたい。
- ・初めて難民のことを知ったときから何か助ける方法はないかと考えていた。少しずつでも支援したいと考えた。
- ・日本にいる私たちが、難民の方々に出来ることはたくさんあることに気付くことができた。

☆児童の自主学習ノートより



学校から出される宿題の他に、自分で考えて自主的に調べたり、まとめたりしている。

16. 授業者による自由記述

私が「難民」について知り、何か自分にできることをしたい、と思い始めたものの、何の不自由もない私に何ができるのかと日々模索しながら「難民」について様々なワークショップに参加したり、本を読みあさったりしながら自分なりに学んできた。「教師である私にできることは何か」と考えたときに、授業を通して子ども達に世界の現状を伝え、考えさせることができる、ということに気付いた。

「日本にいる皆さんには、もっと世界のことに目を向けて欲しい。」私が難民の方から聞いた言葉で、とても心に響いた一言だった。世界の問題に対して手を差し伸べることはもちろん必要ですが、まずは「知ること」が必要だと考える。そうでなければ行動に移すことまで達しないのではないかと思うからだ。

そんな思いを抱えながら子ども達と共に学びを深めてきた。当初は「小学生には難しすぎるテーマではないか。」と感じ、指導案を作成する際にも悩むことが多くあった。どんな切り口で始めたら良いか、世界に興味をもたせるには何が有効か、と試行錯誤した。

しかし学習を進めていく中で、子ども達の心に変化が生まれてきた。難民に関することをニュースで見たり聞いたりすると、必ず声をかけてくれ、自分がそのニュースを見てどう感じたかを話してくれるようになった。また、疑問や興味が増すと、自ら進んで自主学習をし、それをまとめたノートを提出する児童も多くなった。

「難しいから小学生には考えられないだろう。」「まだ早いかな。」などと不安に思うことがあったが、子ども達の力を教師が勝手に決めつけるのではなく、どうしたら理解できる考え、かみ砕いて説明すること、そして何より「子ども達に世界を知ってもらいたい。」という教師側の強い思いが彼らに伝わることで、理解に繋がり、考える力を付けることができるのだと実感することができた。

「僕たちよりも難民の方々の方が我慢強く、頑張っているかもしれない。僕もそんな人になりたい。」ある児童の最後の振り返りカードにあった言葉がとても印象的だった。

参考資料：参考資料：

- ・リオデジャネイロオリンピック開会式動画

[https://www.youtube.com/watch?v=N\\_qXm9HY9Ro&list=PLBEshzEXVRH5PMgaYmG\\_b9QcXbK2Myzar&index=22&t=3609s](https://www.youtube.com/watch?v=N_qXm9HY9Ro&list=PLBEshzEXVRH5PMgaYmG_b9QcXbK2Myzar&index=22&t=3609s)

- ・オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料 スポーツ庁政策課学校体育室編集・発行
- ・オリンピック・パラリンピック教育 実践事例集 平成28年7月東京都教育委員会
- ・オリンピック・パラリンピック学習読本 小学校編 東京都教育委員会
- ・みんなで学ぼうオリンピック・パラリンピック 2020 小学校低学年用 東京都教育委員会